

現代のことば



こはら
小原 克博
かつひろ

「ウィキペディア」を「存じだろ
うか。今や世界中でもっとも利用さ
れている「事典」の一つと言ってよ
いだろう。インターネット上での共
同の編集作業を通じて、次々に新し
い項目が追加され、更新されていく
仕組みは確かに画期的であり、手軽
に調べ物ができる利便性は魅力的
だ。しかし同時に、ウィキペディア
と聞くと、私の心に一抹の不安が広
がっていく。

この一、二年の間に学生のレポー
トにおいて、ウィキペディアからの

引用が爆発的に増加した。出典さえ
きちんと明記しておけばインターネ
ット上の情報を引用することも構わ
ない、と言っているのです、その利用
は間違いではない。ただ、圧倒的な
数の学生が同じようにウィキペディ
アを使うので、似たようなフレーズ
の文章を繰り返し返し目にするにな
り、そのことに狼狽させられるのだ。
インターネットに代表される情報
技術のおかげで、実に多様な情報に
簡単にアクセスできるようになっ
た。しかし、多様性への扉を開いて

若者たちは ウィキな食 納豆を食べたか？

くれる技術を使うことによって、皮
肉にも画一的な行動パターンが生ま
れるのはなぜだろうか。

調べたい言葉を検索すれば、瞬時
に「答え」を返してくれるインターネ
ットの魅力は絶大である。即答性・明
快性は時代のニーズだ。携帯電話の
普及もそれに連動している。しかし、
いつでも、どこでも「つながり」を保
証してくれる道具は、それへの依存
性も高める。送ったメールにすぐ返
事が来ないと不安になったり、来た
メールにすぐ返答できずにいると罪
責感を抱く者は少なくない。

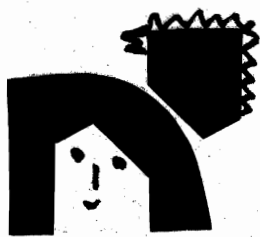
簡単に言ってしまうえば、現代社会
は「待つこと」を嫌悪し、それを苦
手としている。相手からの手紙を「待
ち焦がれる」といった表現に見られ
るように、身を焦がさんばかりに時
の流れに呻吟するといった時間感覚
は失われる一方なのかもしれない。

問題は若者に限らない。バラエテ
ィー番組のデータねつ造事件が大き
な波紋をもたらしたが、大人たちも
待てなくなっている。「納豆ダイエ
ット」であれ何であれ、即効的な答
えがもてはやされる。データのねつ
造をしたメディア側の責任がまず問
われるべきことは言うまでもない
が、単純かつ即効性のある「答え」
を求める視聴者（消費者）ニーズが
拡大していることも、問題の一部に

なっている。

ウィキペディアと納豆の間から、
どのような未来社会がかいま見える
だろうか。自分自身がどのような社
会の一部となっているのかを自覚し
ながら、その技術や情報を利用する
ことが大事だと思う。そうでなけれ
ば、多様な個人の欲求も、結局、画
一的なシステムの補完材料となり、
即物的な情報反応マシンのような人
間が増え続けることになりかねな
い。

納豆ブームにふりまわされない、
地に足の着いた、ねばりのある現実
認識は、長い糸を引くような、悠久
の時の流れを知ることによって生ま
れるのではないか。世の中に単純な
答えなどないことを知り、それを受
けとめるタフネスが、現代の知に求
められている。
(同志社大教授・キリスト教思想)



木代 喜司